

平成21年10月30日公表

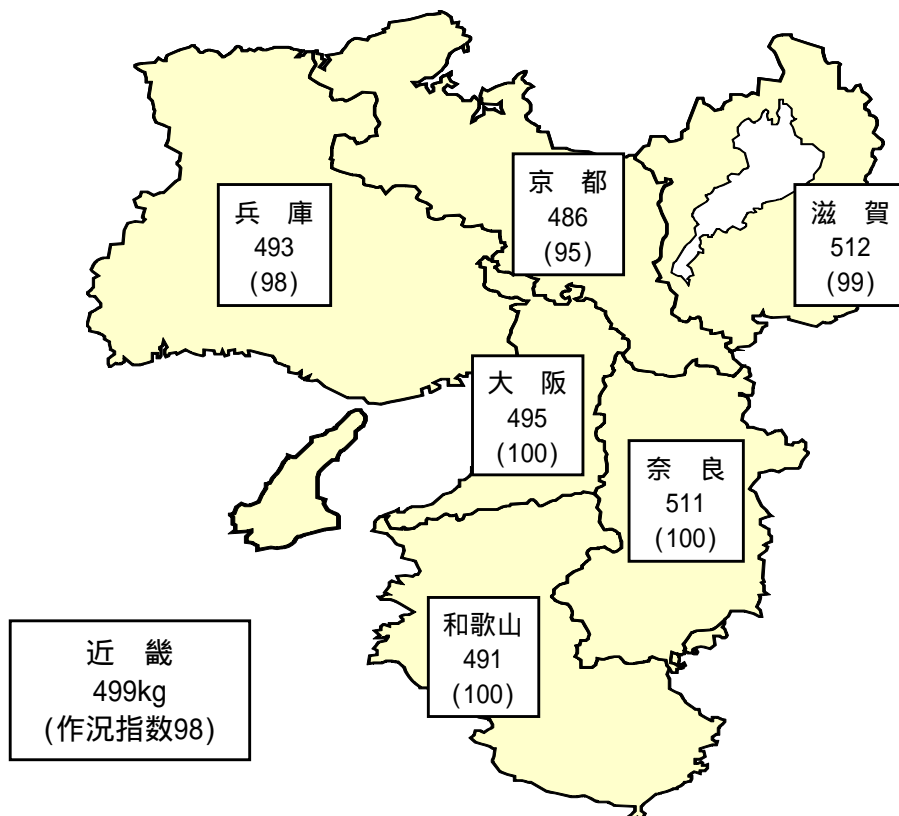
平成21年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在） （近 畿）

— 近畿の水稻作付面積（子実用）は、11万500ha、—
10a当たり予想収量は499kg（作況指数98）の見込み

【調査結果の概要】

- 1 近畿における平成21年産水稻作付面積（子実用）は、11万500haである。
- 2 10月15日現在における近畿の水稻10a当たり予想収量は、499kg（作況指数98）が見込まれる。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は、55万1,800tが見込まれる。

図 府県別10a当たり予想収量（10月15日現在）



作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率である。

10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

この統計調査結果は、以下のアドレスからご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/kinki/toukei/mn/sakutuke/index.html>

この統計調査における調査の目的、調査の対象などは、【調査の概要】P4に掲載しています。

【解 説】

- 1 平成21年産水稻の作付面積（子実用）は11万500haで、前年産に比べて300ha減少した。
- 2 作柄概況
 - （1）穂数は、7月以降の日照不足の影響により、「平年並み」～「少ない」となった。
 - （2）全もみ数は、穂数が「平年並み」～「少ない」となったことから、「平年並み」～「少ない」となった。
 - （3）登熟は、8月中旬以降多照に経過していることから、おおむね順調で「平年並み」ないし「やや良」が見込まれる。
 - （4）被害は、日照不足による被害や台風第18号等の風雨による倒伏など、気象被害が多くみられることから、全体としては「平年並み」～「多い」となっている。
 - （5）これらのことから、10月15日現在における近畿の10a当たり予想収量は、499kg(作況指数98)が見込まれる。
府県別では、滋賀県の10a当たり予想収量は512kg(作況指数99)、京都府は486kg(同95)、大阪府は495kg(同100)、兵庫県は493kg(同98)、奈良県は511kg(同100)、和歌山県は491kg(同100)が見込まれる。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は、55万1,800tが見込まれる。

第1表 平成21年産水稻作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

区 分	作 付 面 積 (子実用)		10a 当 たり 予 想 収 量 kg	予 想 収 穫 量 (子実用) = x		参 考			
	ha	% 対 前 年		t	% 対 前 年	主 食 用 作 付 見 込 面 積 ha	予 想 収 穫 量 (主 食 用) = x t	10a 当 たり 平 年 収 量 kg	作 況 指 数 = /
近 畿	110 500	100	499	551 800	96	109 400	546 100	508	98
滋 賀	33 200	100	512	170 000	97	32 700	167 400	518	99
京 都	15 800	100	486	76 800	93	15 700	76 300	511	95
大 阪	5 840	100	495	28 900	97	5 840	28 900	493	100
兵 庫	38 700	100	493	190 800	95	38 200	188 300	504	98
奈 良	9 340	98	511	47 700	97	9 310	47 600	513	100
和 歌 山	7 650	99	491	37 600	96	7 650	37 600	493	100

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
 2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む)から、生産調整カウントとなる米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積(見込み)である。
 3 青刈りとは、子実の生産以前に刈り取られるもので、飼肥料用などとして用いられるものである。
 なお、青刈りには、稲発酵粗飼料(ホールクロップサイレージ)、わら専用稲等を含む。

第2表 平成21年産水稻の刈取期及び刈取済面積割合（10月15日現在）

区 分	刈 取 期					刈 取 済 面 積 割 合	
	始 期	最 盛 期	終 期	最 盛 期 の 比 較		% ポ イ ン ト	対 平 年 差
				対 平 年	対 前 年		
滋 賀	9. 7	9. 17	9. 29	2日遅	2日早	100	0
京 都	9. 7	9. 25	...	3日遅	1日遅	90	2
大 阪	9. 14	10. 12	...	1日遅	1日遅	70	1
兵 庫	9. 8	9. 26	...	並み	1日早	83	9
奈 良	9. 10	10. 13	...	並み	2日早	62	0
和 歌 山	8. 29	9. 18	10. 13	1日早	1日早	97	0

- 注：1 刈取期の始期とは、刈取済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日である。
 2 「...」は、10月15日現在において、その期日に達していないことを示す。
 3 「」は、減少したものを示す。

【参考】

平成21年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a当たり収量内訳
(10月15日現在概数値)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、刈取り済みの地域について、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量の概数値を示すと次のとおりである。

区 分	合 計	ふるい目幅						
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm	
近畿平均								
重量割合	本年値	100.0	77.0	15.4	2.9	2.3	1.4	1.0
	平均対差		2.5	2.3	0.1	0.1	0.0	0.0
滋賀								
重量割合	本年値	100.0	75.9	16.5	3.0	2.3	1.2	1.1
	平均対差		1.1	1.6	0.3	0.0	0.1	0.1
京都								
重量割合	本年値	100.0	79.4	14.0	2.6	2.0	1.3	0.7
	平均対差		1.2	1.5	0.0	0.2	0.2	0.1
大阪								
重量割合	本年値	100.0	68.2	21.1	3.5	4.1	1.9	1.2
	平均対差		8.5	4.9	2.7	0.5	0.2	0.2
兵庫								
重量割合	本年値	100.0	78.7	13.8	2.9	2.3	1.4	0.9
	平均対差		4.0	3.3	0.0	0.4	0.2	0.1
奈良								
重量割合	本年値	100.0	75.3	16.6	3.2	2.1	1.8	1.0
	平均対差		3.2	2.4	0.2	0.2	0.2	0.2
和歌山								
重量割合	本年値	100.0	78.2	15.4	2.5	1.8	1.2	0.9
	平均対差		0.7	0.5	0.1	0.0	0.0	0.1

単位 { 重量割合 : %
平均対差 : ポイント

区 分	10a当たり 収量 (1.70mm選別)	選別ふるい目幅別10a当たり収量				
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm
		選別	選別	選別	選別	選別
近 畿	499	384	461	476	487	494
滋 賀	512	389	473	488	500	506
京 都	486	386	454	467	476	483
大 阪	495	338	442	459	480	489
兵 庫	493	388	456	470	482	489
奈 良	511	385	470	486	497	506
和 歌 山	491	384	460	472	481	487

単位 : kg

- 注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値である。
 2 選別ふるい目幅別10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことである。
 3 台風等により未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稲調査の中の予想収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況・予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査対象数

- (1) 作付面積調査
標本単位区：3,060単位区 巡回・見積り：205市町村
- (2) 予想収穫量調査
作況標本筆：840筆 作況基準筆：50筆 巡回・見積り：205市町村

3 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

4 調査期間

- (1) 作付面積調査：7月15日現在
- (2) 予想収穫量調査：10月15日現在

5 調査方法

- (1) 作付面積調査
調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行った。
- (2) 予想収穫量調査
調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

6 集計方法

- (1) 作付面積調査
対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。
- (2) 予想収穫量調査
調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

7 利用上の注意

- (1) 本調査（10月15日現在）は、収穫を終えた地域では刈取実測により行ったが、収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。
したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。
- (2) 統計数値については、下記の方法で四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原数	7けた以上(100万)	6けた(10万)	5けた(万)	4けた(1000)	3けた以下(100以下)
四捨五入するけた(下から)	3けた	2けた		1けた	四捨五入しない
例 四捨五入する前(原数)	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
四捨五入した数値(統計数値)	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

8 その他

本調査についての確定値は、「平成21年産水稲の収穫量」として12月上旬に公表する予定である。

問い合わせ先

本統計調査結果について

近畿農政局 統計部

生産流通消費統計課 生産統計第2係

電話：(代表) 075(451)9161 内線2653

(直通) 075(414)9650

農林水産統計全般について

近畿農政局 統計部

統計企画課 企画係

電話：(代表) 075(451)9161 内線2623

(直通) 075(414)9620



2010年世界農林業センサスを平成22年2月1日現在で実施します。

農林業センサスホームページ：<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/>

